

十坪住宅とは

十坪住宅とは、全患者収容をめざした長島愛生園の光田健輔初代園長が、フィリピンのクリオン島の小さなニッパ葺き小屋にヒントを得、これなら平坦な土地の少ない長島愛生園でもできるとして考案された、六畳二間の住宅です。



国民から集まった寄付金で、入所者の労働により、昭和7年から昭和19年までの間に約150棟が建設されました。住宅には、寄付者を称える命名がなされました。

他の療養所には見られない強制隔離政策を象徴する歴史的建造物ですが、現存するのは5棟（梅ヶ香、第四千代田、母の家、第二兵庫、路太利）だけで、これらもいつ壊れてもおかしくない状態です。

家型貯金箱



患者作業でつくられ、戦前、寄付金集めに利用されました。戦前の募金活動は強制隔離を推し進める結果となったのです。

十坪住宅保存のための 募金活動へご協力を

ゆいの会では、ハンセン病療養所の世界遺産登録運動に取り組んでおり、まずはハンセン病隔離政策を象徴する施設の一つであり、老朽化の激しい十坪住宅保存のための募金活動を始めることにしました。戦前の十坪住宅は強制隔離を推し進めるためのものでしたが、この度は、ハンセン病強制隔離政策のような過ちを二度と繰り返さないため、ハンセン病療養所世界遺産登録運動として、十坪住宅保存のための募金活動を展開するものです。

ぜひ、募金活動へご協力をお願いします。

【口座名】

中国銀行大元支店 普通 1667945

ハンセンボランティア「ゆいの会」

世界遺産応援募金口座

お問い合わせは

〒700-0817

岡山市北区弓之町1-17

五藤ビル4階 山本勝敏法律事務所内

ゆいの会事務局長 山本勝敏

電話：086-234-1711

FAX：086-234-8696

ブログ / <http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp>

十坪住宅を保存しよう

ハンセン病療養所の 世界遺産登録運動第1弾



崩壊寸前の十坪住宅「梅ヶ香」

あいさつ

会長 近藤 剛



現在、全国ハンセン病療養所入所者協議会(全療協)を中心として、わが国における過酷なハンセン病政策の歴史とそれを生き抜いてきた人々の生きざまを、後世に語り続けるために、ハンセン病療養所を歴史的遺産

として保存する運動が始まっています。ハワイ州モロカイ島には、ハンセン病隔離政策の歴史を後世に語り継ぐことなどを目的として、1969年の「ハンセン病の蔓延を防止する法律」の廃止から11年後の1980年には、カラウパパ国立歴史公園が創設されています。こうした海外の例と比較しても、歴史的遺産に対する保存に向けた、国の取組みは極めて遅いと言わざるを得ません。

ハンセンボランティア「ゆいの会」は、全療協などが進めている保存運動に共感し、私たちが市民として、取り組める活動をしようと決意しました。そして、まず、岡山県瀬戸内市邑久町長島にある国立療養所長島愛生園の「十坪住宅」の修理保存のための運動を開始しました。

ぜひとも、多くの市民の方々のご理解と御支援をいただければ幸いです。こうした市民の方々の運動が広がることで、全療協や入所者の方々が望んでおられるハンセン病療養所の歴史的遺産としての保存運動への一助になることを期待しています。

現地調査状況

平成27年8月7日、9月4日、10月29日

現地調査実施

古民家再生に実績のある建築士と一緒に、建物の現状を調査し、修復ができるのかを確認するとともに、実測調査を行いました。



平成27年11月19日

東京大学の太月敏雄教授(建築計画学)を招いた現地調査実施



平成27年12月16日

当面の応急措置のための現地調査実施



大工さん達が調査に入る「第四千代田」

ゆいの会とは

「ゆいの会」とは、ハンセン病療養所入所者との交流や、ハンセン病問題の普及啓発を行うボランティア団体です。

毎年1回養成講座を実施し、講座を修了した登録会員が、歴史館案内ボランティア、入所者との交流ボランティアなどさまざまな活動をしています。

今回、ハンセン病療養所世界遺産登録運動の第1弾として、十坪住宅の保存活動を始めました。

ただ、保存が必要な施設は十坪住宅だけではありません。ゆいの会では、ほかの歴史的遺産についても保存活動を検討しています。

また、シンポジウムやフィールドワークを開催し、世界遺産登録運動を盛り上げていきたいと考えています。